

「マラウイ便り」 ～農作業の道具について～

Vol. 2

9月に入り徐々に気温が上がり、マラリアの媒介源となる蚊も増え始めました。蚊帳を吊って寝るなんていつ以来だろうと懐かしさを覚えます。そんな中、私の住んでいる地域ではいつからともなく計画的な断水が始まり、同僚から「乾季も終わりに近いから、水不足になるんだよ。これがデッサの9月さ。」と教えてもらいました。蛇口をひねれば水が出る日本ではなかなかその有り難さに気付く機会は少ないですが、マラウイに来て改めて水の大切さ・水道の有り難さを実感しました。マラウイの雨季は11月頃からなので、雨はまだまだ先だろうと思っていた最中、月末になって空からぽつぽつと雨粒が落ちてきました。7月にこちらに赴任してきた私にとっては3か月振り、現地の人たちにとっては実に半年振りの待ちに待った雨でした。

マラウイではこの時期になると雨季に向けて畑の準備が始まります。ということで今回はデッサの農家の人々の作業を支える農具について紹介します(写真①)。一番右が日本でも馴染みのある鍬で、現地ではカース(khasu)と呼ばれています。マラウイの主食、シマの原料となるメイズ(トウモロコシの一種)を作付けするために畝立てをするのですが(写真②)、なんとこの鍬一本のみで広大な面積を耕していきます。とても大変な肉体労働です。

真ん中にある道具はチクワクワ(chikwakwa)とよばれる草刈道具で、少し曲がった鉄製の棒を左右に振るだけという至って簡単な使用方法ですが(写真③)

実際にやってみるとこれがなかなか難しい。地元の人たちはこの道具を結構な勢いでぶんぶん振りながら雑草を刈っていくため、その様子は頼もしくも見えますが、同時に恐怖を感じる一コマでもあります。そして一番左がチクワンジェ(chikwanje)といい、木を切ったり肉をさばいたりと色々な用途に使用されます。盗賊を彷彿とさせる一見物騒なフォルムのせいで、持っている人を見るとギョッとしてしまいましたが、みんなすてきな笑顔で挨拶を返してくれます。以上紹介した3つの道具はマラウイの農村部では必須アイテムであり、出会うひとみんなが持っているといっても過言ではない代物です。



写真①：マラウイの農具



写真②：メイズ畑・畝



写真③：草刈道具

明日使えるかもしれないチェワ語：Palibe bvuto. (パリバブト)「どういたしまして」